第３章　特殊商品売買

３－１　割賦販売

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　割賦販売の内容を理解しよう！

②　割賦販売に関する仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「割賦売掛金」勘定（資産）

特殊商品売買とは、通常の商品売買とは異なる特殊な販売形態や購入形態をとる商品売買をいいます。各論点において、何が特殊なのかをしっかり理解して、会計処理を学習して下さい。

（1）割賦販売とは？

割賦販売（かっぷはんばい）とは、販売代金を複数回に分割して受け取る販売形態をいいます。通常の商品の販売と比較して、販売代金を分割で回収することが特殊であり、通常の売掛金と区別するために、割賦販売に関する売掛金は「**割賦売掛金**」勘定（資産）で処理します。なお、通常、三分法で処理します。

例題３－１　商品40,000円を掛で仕入れた。その商品を10回の分割払いで50,000円で販売した。当期において割賦代金5,000円を現金で回収した。

① 仕入時（期中取引）

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
仕　　　入	**40,000**	**買　掛　金**	**40,000**

② 割賦売上時（期中取引）

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
割 賦 売 掛 金	**50,000**	**売　　　上**	**50,000**

③ 割賦売掛金回収時（期中取引）

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現　　　金	**5,000**	**割 賦 売 掛 金**	**5,000**

④ 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

割 賦 売 掛 金	45,000	売　　　上	50,000
仕　　　入	40,000		

⑤ 決算整理

すべての商品が販売済みですので、「仕入」勘定（費用）の金額は売上原価になっています。したがって、決算整理仕訳はありません。

⑥ 決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表は、決算整理前残高試算表と同じです。

３－２　未着商品売買

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　未着商品売買の内容を理解しよう！

②　未着商品売買に関する仕訳をマスターしよう！

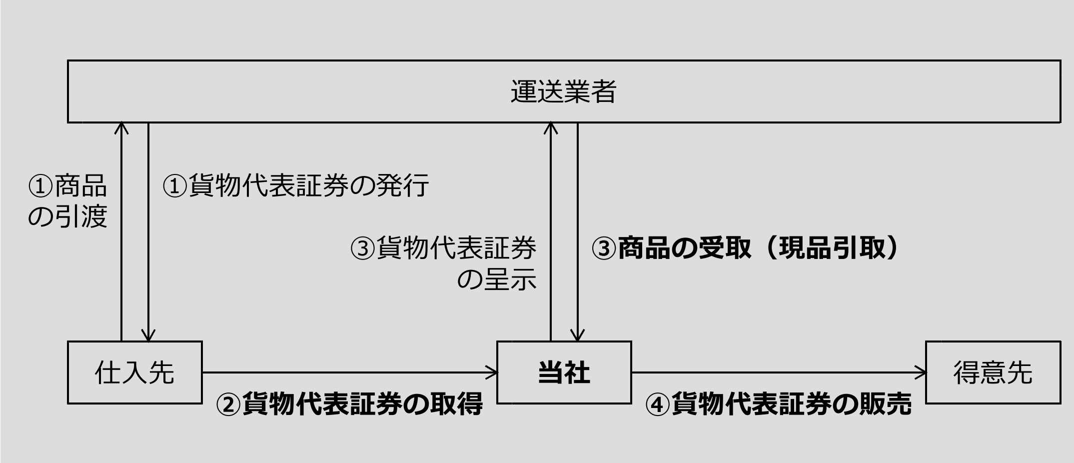
主な勘定科目

「未着商品」勘定（資産）

運送業者が発行する運送中の貨物を受け取る権利を表した有価証券を**貨物代表証券**（**貨物引換証**、**船荷証券**）といいます。この貨物代表証券が表象している商品を**未着商品**といいます。

遠隔地の仕入先から商品を仕入れる場合、商品の運送を運送会社に依頼しますが、実際の商品を受け取るより先に貨物代表証券を受け取ります（図②）。この貨物代表証券の受取（取得）は、実際の商品は未だ届いていませんが、実質的に商品を購入したことと変わりませんので、**未着商品の仕入（取得）**として処理します。

また、取得した貨物代表証券はそれと引き換えに実際の商品を受け取ること（図③　現品引取）も、貨物引換証を販売すること（図④　未着商品販売）もできます。



（１）貨物代表証券の取得（図②）

貨物代表証券の取得は現物の商品と区別するため、「**未着商品**」勘定（資産）で処理します。なお、貨物代表証券の取得は、実質的に商品の仕入と同じなので、通常の仕入と同様に損益計算書上、**当期商品仕入高**として計上します。

例題３－２　貨物引換証50,000円を掛で取得した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
未着商品	**50,000**	**買掛金**	**50,000**

（２）現品引取（図③）

現品引取とは、貨物代表証券と引換に現品（現物の商品）を引き取ることです。現品を引き取ったことで未着商品ではなくなったので、現品引取時に「**未着商品**」勘定（資産）から「**仕入**」勘定（費用）へ振り替えます。

また、現品引取時に生じる諸掛を**引取費用**といい、現品引取により取得する現品の付随費用として商品の原価に算入します。したがって、引取費用は「**仕入**」勘定（費用）で処理します。なお、この引取費用も、損益計算書上、**当期商品仕入高**として計上します。

例題３－３　貨物引換証10,000円を現品で引き取り、引取費用200円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**10,200**	**未着商品**	**10,000**
		現金	**200**

（３）貨物代表証券の販売（図④）

貨物代表証券は現品引取を行わずに販売することができます。貨物代表証券は「未着商品」勘定（資産）で処理していましたが、販売したことで売上原価に変わります。そこで、販売した原価の金額を「未着商品」勘定（資産）から「仕入」勘定（費用）に振り替えます（未着商品売買の記帳方法としては、様々な方法がありますが、全商簿記２級で出題される都度法について学習します）。

販売時に未着商品の売上原価を振り替えていますので、決算では特に仕訳を行いません。この場合、決算整理前残高試算表における「未着商品」勘定（資産）は、**期末未着商品原価**となります。

例題３－４　**貨物引換証40,000円を掛けで仕入れ、そのうち30,000円を50,000円で掛売上した。**

① 仕入時（期中取引）

借方科目	金額	貸方科目	金額
未着商品	**40,000**	**買掛金**	**40,000**

② 未着商品の販売時（期中取引）

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**50,000**	**売上**	**50,000**
仕入	**30,000**	**未着商品**	**30,000**

③ 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

未着商品	10,000	売上	50,000
仕入	30,000		

⑤ 決算整理

前T/Bの「未着商品」勘定（資産）は期末未着商品であり、前T/Bの「仕入」勘定（費用）は売上原価になっています。したがって、決算整理仕訳はありません。

⑥ 決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表は、決算整理前残高試算表と同じです。

（4）荷為替手形

商品を遠方の取引先から仕入れる場合に、仕入先が貨物代表証券を担保として、為替手形を振り出し、当社はこの手形の引受をして貨物代表証券を受け取ります。これを、**荷為替の引受**といい、この場合に振り出された手形を**荷為替手形**といいます。［２－５］では販売側の処理を学習しましたが、ここでは仕入側の処理を学習します。

仕入側は荷為替手形の支払人となりますので、「**支払手形**」勘定（負債）で処理します。

例題３－５　**当社は商品5,000円を仕入れることとし、その際、仕入先が取引銀行で額面4,000円の荷為替を取り組んだため、当社はこれを引き受け、貨物引換証を受け取った。なお、残額は掛けとした。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
未着商品	**5,000**	**支払手形**	**4,000**
		買掛金	**1,000**

［２－５］で学習しましたが、販売側の処理は以下のとおりです。（割引料は200円）

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	3,800	売上	5,000
手形売却損	200		
売掛金	1,000		